脳・神経センター・リハビリテーションセンター

長崎北病院 伝言板 3月号

令和6年3月1日発行

3月。2月4日が立春。暦の上ではもう春。日は長くなり「梅は咲いたか桜はまだかいな」。白木蓮がここにいましたよと咲き誇る。「光の春」。木々には小鳥が飛び交い賑やかに囀る（さえずる）「音の春」。そしていよいよ一雨ごとに暖かくなっていく「気温の春」。気象庁の定義では3-5月が春。3月も前半は「春まだき」の感じですが後半は一気に春へ。五感で感じましょう。

それは突然に

それは突然に。快晴の空に一叢（ひとむら）の雲が沸くように喉の奥に不快感がじわりと。「ん？」。病気の始まりでした。コロナに罹りました。皆さんにコロナがまた流行してます、気をつけましょうと言いながら自分が感染しました。「トホホ」です。「ん？」と思って検査しましたが陰性。単なる風邪かなと思いつつも、夕方さらにだるくなってきたのでもう一回検査。すると検査キットに線がばっちり2本。立派に「陽性」。コロナでした。発症初期には検査キットでは陰性に出ることがある。翌日には陽性になることが多いので一回陰性でもコロナではないと思わないようにと言ってきましたがその通りでした。熱は高くはなかったですが「咽頭痛、きつい、寒気」。４日間は完全ダウンでした。その後元気にはなりましたが病院独自の復帰基準があります。検査しても陽性が続き「まだダメ」と言われて結局10日間出勤停止。コロナは感染法で5類になりましたので、休み中に遊びに出かけても良いのですがそういう気にもなれず。途中で花粉症も始まり最悪でした。

鬱々として過ごした10日間でした。感染しても若い方は症状の無い方や軽い人が多い。しかし、高齢者では亡くなる方も少なくありません。これくらいで済んでよかったと思うことにします。10日ぶりに復帰してびっくり。病院内でコロナの集団感染が起こっていました。コロナの検査も以前のように無症状の方や接触者の検査などはしなくなりました。症状のある方だけを検査します。ある病棟で数人の方の発症があったので、念のためにその病棟の患者さん、職員全員を検査してびっくり。症状のある方の2倍以上の人が症状は無いのに陽性でした。無症状ですから検査しないと分かりません。そのため、陽性患者さんが自由に動き回っていました。陽性の職員も普通に勤務していました。結果的に感染が広がっていったようです。感染が広がると職員も大量に働けなくなります。患者さんは感染で大変な上にリハや検査なども十分にできません。申し訳ないことです。職員もコロナにかかった人も苦しいですが、残った職員は休みも取れず連日勤務、夜勤。身体的疲労は蓄積しますし、十分な仕事ができないストレス、感染の不安もあったと思います。その中で残った職員、他病棟、他部署からの応援などで先の見えない暗いトンネルの中を頑張って進んでくれています。もう少しで抜けそうです。

コロナが広がっても以前のように特例処置や公的補助はありません。病院ごとの基準（平均在院日数など）も以前は緩和されていましたが今は普通通り。コロナの検査や薬も無料でしたが有料化。治療薬「ラゲブリオ」は原価9万円です。以前は無料でした。現在は3月までの特例で3割負担の方でも9千円ですが、４月からは2万7千円になります。「高い！」。どんなにコロナが広がっても現在、そして今後は通常の医療は基準通りで行う必要があります。コロナに対応しながら救急対応や通常の入退院も行う。二重に大変な２月でした。３月がコロナが落ちつき、通常運転ができる春、花の季節になることを願っています。今回はぼやきの３月号です。（S.A.）